

「見た目問題」について

中 一

「見た目問題」とは、顔や体に、生まれつき消えないあざや変形があったり、事故や病気によるキズややけど、脱毛など、外見に症状があったりする人たちが、「見た目」を理由とする差別や偏見のせいで問題にぶつかってしまふことだ。きつとこういったことで悩んでいる人は、僕が知らないだけで結構多いのではないかと思う。

僕の妹のおでこには、生まれつき乳児血管腫という赤あざがある。そのあざは、たまたまハートマークで、僕や家族は可愛いチャームポイントだと思っている。乳児血管腫はいずれ消えてしまうものも多く、妹のあざも今ではだいぶ薄くなってきた。でも、そのことを知らない見知らぬ人から、「可哀想」と言われたことがあり、嫌な気持ちになった。きっと「見た目問題」を抱える当事者やその家族は、人からじろじろ見られたり、心ない言動に傷ついたり、辛い思いをたくさんしているのだと思った。これから先も、何度もこんな気持ち

ちになるかもしれないと思ったら胸が苦しくなった。

外見は本来一人一人違うものだけれど、日本人は特に「人と違うこと」を苦手とする人が多いようだ。「人は外見ではなく中身が大切。」とよく言うけれど、実際には外見で人を判断することも多いと思う。

「見た目問題」を抱えていなくても、見た目のコンプレックスで悩む人は多く、整形したり、今ではスマホの加工アプリで写真を撮ったりするところが当たり前の世の中になっている。つまり、自分の顔や見た目を気にしているのだ。

「見た目問題」を抱える人は、様々な壁にぶつかってしまうことが多く、学校や社会で生きづらさを感じている人も多いはずだ。でも、その人と仲良くなったり内面を知ったりすれば、見た目は気にならなくなると思う。ただ、自分は気にならなくても相手にとっては気になることもある。大事なものは、その人の立場になって気持ちを理解したり、想像したりすることだ。相手のことをよく知らないのに、外見だけで判断するのはやっぱり違うと思うし、そんな偏見はなくすべきだ。

容姿の捉え方は人それぞれだけれど、僕たちにできることは、この問題を正しく知り、コミュニケーションを通じて相手と向き合うことである。「見た目問題」を「見る目問題」に変えていかなくてはならないと感じた。

「見た目問題」を抱える人も、そうでない人も、自由で、ありのままの自分で、自分らしい生き方を樂しむことができる社会になることが理想だ。そして心から「人は見た目じゃない」と言えるようになりたい。

大事な妹が、この先見た目のことで、もし嫌な思いをしたとしても、ずっと笑顔で過ごせるように、僕にできる精一杯のことをしていきたいと思う。